

2026 年 10 月 9 日

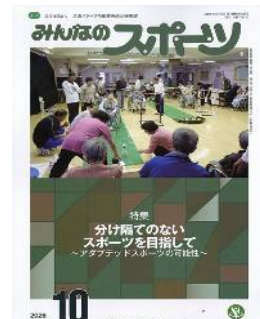
## 『みんなのスポーツ』 10 月号 (No.527) から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の10月号は「**分け隔てのないスポーツを目指して**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



- (1) 理論 2 「アダプテッド」の視点を加味した指導・支援 冒頭部分の・・・特別支援学校に在籍する児童生徒数は2012年度の16,4万人から、24年度は39.4万人へと大幅に増加。通常学級においても、学習面や行動面で困難を示す児童生徒が8.8%在籍されているという数字にやはりそうなのかと思いました。今年度は体育の授業や環境教育・総合学習の出前授業で数校の小学校に出向きましたが実感として感じております。  
冊子にある、「**できる**」**実感が持てる指導の工夫**。①場所(コート)の工夫 ②用具の工夫 ③ルールの工夫を考えて今後も私も考えていきたいと思います。
- (2) 多世代の健康を支える「ファミリー健康体力向上事業」の展開・・・福岡県水巻町に学ぶ、測定を「次の一步」につなげる工夫 スポーツフェスティバルは毎月12日:スポーツの日に横須賀市では行っています。スポーツ推進委員協議会は新体力測定テストを主に体育会館サブアリーナ、陸上競技場で担当、他にモルックの体験、フライングディスク体験他を担当します。新体力測定テストに参加の方は家族ずれが多く、中には毎年来られる方もあり測定して終わりにせず、家族で結果を振り返ったり、スポーツ推進委員が時間の許す限り声をかけたりアドバイスができればと考えています。  
紹介記事にもあるように、日ごろの運動や来年も来ていただけるように行えればと思います。できるところから声掛けをやってみたいと思います。できる範囲で参加の方に声をかけましょう！今回の記事は私には大いに参考になりました。
- (3) キャリア処方箋:報酬ではない「小さな認め合い」こそが、自発的な活動意欲を生み出す 冒頭にあるように、「感謝の言葉は、大きな成果が得られた時にかけるもの」ともい込んでいませんか？ スポーツ推進委員の活動のように、報酬が目的でなく、熱意や善意を前提にしていると、目立った成果の時だけ感謝し合っていると、メンバーの熱意は冷めていき、活動の意義が感じられなくなってきました。私は意識して、日々の「**当たり前**の行動」に対する「**小さな認め合い**」**具体的には日ごろの工夫や努力に対して「ちゃんと見ていますよ」と伝え、温かな雰囲気**を組織に循環させるコミュニケーションをしています。です。組織の中に「いつでもお互いの存在を認め合っている」という信頼感が育ちます。お互いを認め合う言葉の力を、日々の活動の中に少しずつ試していきましょう。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて(行動)みませんか？

＊本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど思います。ここへきて「みんなのスポーツ」は紙面が大きく変わってきていると感じます。紹介されていることがそのまま使える、本当に読みやすい、わかりやすい事例が多いなどです。

活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上